

第4回 大阪狭山市総合計画審議会 議事概要

開催日時	令和2年10月20日(火) 13時00分～15時00分
開催場所	大阪狭山市役所 3F 第一会議室
出席者	上甫木委員、小野委員、久委員、溝手委員、久才委員、菊屋委員、宮下委員、中嶋委員、鈴木委員、渡邊委員、内山委員、吾妻委員、田中委員、時本委員、中川委員、福田委員
欠席者	地下委員、大西委員、小松委員、上田委員
事務局	政策推進部長、政策推進部理事、政策推進部企画グループ課長、政策推進部企画グループ参事、政策推進部企画グループ主査、政策推進部企画グループ会計年度任用職員
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第五次大阪狭山市総合計画基本構想・基本計画(素案)として諮問された事項に対する委員の意見と審議会としての方向性(案)について (2) 各中学校区におけるまちづくりの方向性(案)について 3. その他 4. 閉会
資料	資料1 第五次大阪狭山市総合計画基本構想・基本計画(素案)として諮問された事項に対する委員の意見と審議会としての方向性(案) 資料2 第五次大阪狭山市総合計画施策体系(答申案として提示)(案)

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
会長 事務局 会長 事務局 委員 会長 委員 会長 副会長 委員	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 ・委員 20 名中 16 名が出席しており、審議会が成立していることを確認。 <p>2 議事</p> <p>(1)第五次大阪狭山市総合計画基本構想・基本計画（素案）として諮問された事項に対する委員の意見と審議会としての方向性（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料説明をお願いします。 (資料説明) ・審議会の方向性について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。特に、市の将来像のサブタイトルについて、案1「みんなでつくる おおさかさやま」や案2「みんなでつくる 大阪狭山市」、案3「みんなでつくる 住み続けたいまちへ」といった、「みんなで取り組む」をキーワードとしたサブタイトル案が出ている。 ・やわらかい表現としては、個人的には案1という印象がある。事務局としては、何かあるか。 ・委員の皆さまから、行政の計画ではなく、みんなの計画であるというキャッチフレーズ的なものあればというご意見を踏まえ、「みんなでつくる」をキーワードとした案1から案3をお示しさせていただいた。市としては、柔らかなイメージをもっている案1はどうかと考えている。 ・将来像について、案3を基に「みんなでつくる 住み続けたいまち」が良いのではないかと。今後の目標が、感じ取れるイメージがある。 ・大阪狭山市の計画とは、自明なことだろうという意見である。 ・「住み続けたいまち」だと今住んでいる市民へのメッセージになるので、今後近隣市等から移住を考えてもらえるような、市外からの人が見ても魅力的なタイトルを考えてもらえないか。 ・「住み続けたいまち」は、大阪狭山市に住んでいる人のみという印象に取られるという意見である。 ・施策の大綱2の説明文書で、修正案として「健康長寿」を削除し、「心も身体も」の文言を追加しているが、前回お話したのは、生活上の健康さなので、追加された「心も身体も」を外した方が住み慣れた地域で健康でいきいき暮らせるまちをめざすというメッセージが伝わるのではないかと。単に、心と身体だけではないことを伝えたい。 ・施策19「市民とともにつくる参画と協働のまちづくり」について、現行計画もそうだが、抽象的な表現になっている。 ・指標に「自治会等の加入率」があり、基準値である令和元年度は56.7%となっているが、平成15年は71.2%、平成23年は66.7%、そし

副会長	<p>て、令和元年は56.7%と、この10年間で10%下がっている。今後、どんどん下がっていく不安がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画では、具体的なことは書けないということは理解できるが、他の施策では、団体の名前が入っているなど、具体的に書かれている施策もある。 ・施策として、重点事項のように強調するかどうか。例えば、地域福祉計画など関連するような個別計画と連動しながら発信する方法だけでなく、ここで強いメッセージを入れるなどの方法もあるのではないか。 ・今後、5年先、10年先をどう見るかであるが、大きな流れとして、何もしなければ、このままずるずるって感じがする。例えば、ボランティアやNPOなどに力を入れるようなメッセージを出すのか、この先をどうするのかについては、非常に重要なポイントである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会は、地域ごとで取り組み、円卓会議は、テーマごとに横へつなぐようなつながりを持つという思いもあってつくられた印象がある。現在、テーマごとに取り組ましようと言っていた方が、高齢となり、地域に関われなくなっている。 ・その中で、この計画はどこにパンチを入れたくて作成しているのかが見えない。市民みんながまちづくりに関わるようなメッセージを入れてはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・83ページには、しっかりと書いている。それを一歩進め、誰がどういう形で応援していくのかというあたりに、具体性を少し付けてはどうか。 ・円卓会等議を通じて、大阪狭山市は、住民自治の仕組みをある程度つくってきた。それを基盤に協働を進めようとしてきた地域なので、これまでの市民活動の評価をしながら大阪狭山市にふさわしいあり方を検討するべきではないか。 ・40歳代以下の元気な人たちとこれまでの担い手の方の活動等で生じている溝の埋め合わせをどうしていくのか話をして、新たな形での協働の取り組みや地域活動の限界について、一緒に話していくような仕組みが動くといいのではないか。このような方向性の書きぶりを入れてはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今出た話以外でも、PTAや地域協議会にもまちづくりに対して熱心な方が多いが、任期を終えた後、活動する場や発言する場がなくなる。そういった人を早い段階で見つけてピックアップし、迎え入れる受け皿のような場や仕組みがあれば良い。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関して多様な組織が集まる場として、円卓会議が役割を担っているのかと思うが、現状はどうなのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・円卓会議の一番の目的はコミュニティづくりであり、人と人とのつながりを大事にして、そこからまちづくりにつなげていく。PTA等については、任期が終わってからの受け皿や活動の場がないので、参画してもらうように声をかけてはいるが、仕事がありイベントや行事に参加することが難しく、うまくいっていないのが現状である。 ・円卓会議としても高齢化で後継者に悩んでいるので、若い方に参加してほしい思いがある。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市のまちづくり協議会の事例だが、これまではテーマ別に部会で取り組んでいたが、役員が全員 50 歳代以下に変わり、部会名に部会長名を設けて部会長が仲間を集めて取り組むようになった。そうすると、自分たちがやりたいことに取り組むので若者の活動が活発になった。やりたいことに集中して取り組むような仕組みがあると活動も長続きするのかなと思う。根本的にやり方を変えてみることにより、これまでと見解が変わってきたり、若手が入ってきたりするため、そういうチャレンジを大阪狭山市でもやっていけばよい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりについては、次のステージに展開していくという具体的な話をいただいたので、事務局のほうで検討をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市税徴収率について、現実に即した目標を設定しているを書いてあるが、目標を設定することではないのではないか。設定するとしても 100% 以外を目標にすることはおかしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の総合計画でも行財政運営の指標として、市税徴収率を設定しているところもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政において、税を徴収して使うためには、やはり公平であるべきである。策定前の段階で、取り残しがあることを前提にした目標を掲げることはおかしいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策 6 の高齢者関連の取組みの 1 つである、高齢者自立支援などの推進の文章について、いきいき百歳体操や活動の場の提供について文言を追加しており、具体的な内容がわかりやすくなった。ただ、「社会参加の機会の充実」については具体例が書いていないので、例えば「高齢者の居場所の整理など」のように具体例を入れてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・原課と調整して、表現を検討する。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの意見を踏まえ、「高齢者への支援の充実」という施策名称を、「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」に修正しているが、資料 2 の施策体系の案①では、「⑥高齢者への支援の充実」となっており、案②では「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」とあるが、違いを説明いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・案①は、「支援」という表現が多いと意見をいただいたので、案②では表現を変えて示している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・案②が審議会の意見を反映した施策の名称となっているという認識で良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みのとおりである。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・あえて案①がある意図は何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問案で施策⑭は、多くの分野が混同した表現になっていると指摘をいただいたので、案①は、市として自然インフラ、歴史インフラを基盤としてまちづくり考えていこうとの視点から、施策を生涯学習・スポーツと、市民文化・歴史文化と生涯学習に分類した。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への支援の充実が「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」となっており、支援だと受け手になってしまう可能性もあるので、人に関する箇所は、障がい者や子どもや若者に関しても、高齢者のように市民が主体的に関わるような書きぶりに合わせてはどうか。

会長	・より市民が主体的に関わっていくという施策の位置付けが良いという意見である。
委員	・再犯防止については個別計画に委ねるとしているが、再犯防止対策は、内閣府が中心となって全国的に、横断的な対策を行うこととなっていることから、再犯という観点も必要ではないか。
副会長	・再犯防止については、働く場所や居場所がないといった社会問題や、社会復帰を支援する保護司のなり手不足が問題視されており、地域の理解が高まることで改善につながるので、そのようなメッセージをどこかで表現できると良い。
事務局 副会長	・再犯防止の観点については、関係課と調整しどの部分で記載するか検討する。 ・施策21の持続可能な財政運営の指標について、修正案が出ているが、「女性管理職の登用」について、目標値が低く、予定値になっている。
事務局	・実態として、10年後、現在いる女性職員の人数と階層を見ると、20%でも厳しい状況である。10年を過ぎると、現時点では、若手の女性職員も多く採用されており、男性と女性が同じ比率で昇級していくことで3割といった目標になることが想定される。そのため、現在から10年後を見ると、現在の女性職員を管理職に登用できる見込みは困難であると関係課に確認した。
委員	・現在いる女性職員を基準に考えているので、例えば、キャリアを積んだ人を中途採用することにより、数値を上げることができる。このように多様な採用方法をとることにより、目標は変わってくるため、考える余地はあるのではないかと。考慮して数値を設定してはどうか。
委員	・施策大綱4の説明文書の最後に、「平和なまちをめざす」と表現しているが、表現として正しいのか。
委員	・平和の位置を文章の上段に変えて、「人権平和が尊重され」といった表記に変えれば問題ないのではないかと。
<p>(2)各中学校区におけるまちづくりの方向性（案）について</p>	
会長 事務局	・資料説明をお願いします。 (資料説明)
会長	・確認だが、これまでは中学校区単位で円卓会議が行われており、ここでのまちづくり市民会議とは、円卓会議という認識なのか。
事務局	・まちづくり市民会議は、円卓会議に直接関与しているものではなく、構成委員としては、まちづくり円卓会議、地区長会、民生委員・児童委員、地区福祉委員会、公募による委員となっている。平成30年度には狭山ニュータウン地区活性化指針を策定し、その際の策定委員の市民の方々にも参画いただいている。
会長	・そこでの議論を受けて、この中学校区別の「各中学校区のまちづくりの方向性」ということで今回提示されているのか。
事務局	・そのとおりである。この中学校区別にまちづくり市民会議を、グループワー

<p>会長 事務局 会長 事務局</p>	<p>クなどを活用して、まちや各地区の課題や取り組みたいこと、自分たちができることについて議論いただいた。その議論を踏まえて、地域別のまちづくりの方向性として作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでは、地域別や中学校区単位での計画はなかったのか。 • 総合計画書（「総合計画」とは使い分け）としては、今回が初めてである。 • 各中学校区に位置付けられた円卓会議では、現状は大きなビジョンがないため、地域課題に対して提案をして取り組んでいるという認識で良いのか。 • そのとおりである。 • 全市域的に取り組む施策については、基本計画に示している。 • 「各中学校区のまちづくりの方向性」では、中学校区別に活かしていきたい、改善していきたいところについて示し、それらに対する取組みを基本計画の施策に当てはめている。 • 例えば、「各中学校区のまちづくりの方向性」の3ページ、4ページで活かしていきたいところの1つとして、UPつぶの立地が挙げられているが、行政としては施策1の子育てにやさしい環境づくりで盛り込んでいるとの見方になる。
<p>会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 具体的なアクションプランは、各中学校の円卓会議で検討をしていくということなのか。 • 本市のまちづくり円卓会議条例の中に、地域ビジョンの策定に努めるとの規定がある。今回提示しているのは「各中学校区のまちづくりの方向性」だが、各校区のまちづくりの方向性についてのたたき案や参考になるものだと考えている。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 市民会議の提言書があるが、それを基に事務局で整理したものが「各中学校区のまちづくりの方向性」ということか。 • そのとおりである。提言書で議論いただいた内容に対応させて、行政としてできることなどを記載させていただいた。 • ベースとなっているのは、まちづくり市民会議からいただいた提言である。まちづくり市民会議メンバー以外の市民の方とも、その後、意見交換会も行い、庁内でも検討した。審議会においても、ご意見をいただければと考えている。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「各中学校区のまちづくりの方向性」は、方向性という形で作成され、実施計画は、基本計画の中で作成されるものである。そのため、「各中学校区のまちづくりの方向性」の中で、新たな予算や人の配置といった意味合いはないのか。 • 実施計画は、基本計画において定めた施策を具体的かつ実効性のある計画として策定するものであり、「各中学校区のまちづくりの方向性」の実実施計画は策定しない。 • 円卓会議条例では、地域ビジョンを作成すると努力義務の規定があり、その計画の立案に向けた参考として、活用してもらえるものとして今回諮問した。地域別計画ではなく、「各中学校区のまちづくりの方向性」として記載させ

委員	<p>ていただいている。趣旨としては、参考にいただき、各地域で実施する計画を取りまとめてもらえるような動きにつながれば良いと考えている。案がまとまり次第、各中学校区にお示ししたいと考えている。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 例えば8ページの南中学校区で、市民や事業者とともに行政が取り組むことの中で、施策5の健康づくりや医療体制の充実に、近畿大学病院等の移転後のことが書いてある。施策10の便利で快適な道路交通環境の形成でも、近畿大学病院等の移転に伴う路線バスのダイヤへの影響が書いてあるが、南中学校区にあるのは事実だが、移転したことによる影響は大阪狭山市全域に及ぶものなので、違和感がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 近畿大学病院等の移転については、南中学校区だけではなく全市域的な影響なので、資料6の第五次総合計画素案の49ページから50ページにも記載させていただいている。 施策1の子育てにやさしい環境づくりは、狭山中学校区にだけ書いてあると他の中学校区は子育てに力を入れないのかといった印象を受ける。 市民や事業者とともに行政が取り組むことの項目は、見せ方を工夫してもらいたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 地域別計画の地域の位置付けをどうするかということだが、日常生活圏域のように、住んでいる地域での生活を見れる範囲で、例えば、中学校区を設定して、自分たちの暮らしはこの範囲でこうしたいといったように住民目線の計画作りを市ではなく、地域からやっていくことに意味があるのではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの中身というのは、地域別ではどのような課題を持っているのかというあたりを書き込み、市民がどう関わっていくのかという関係性が見えてくれば面白い。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革にも関わるが、地域担当制を敷けば、明確な形が出る。しかし、ここまで書いて、あとは地域に任せるということであれば、誰がやるのかという課題が出てくる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域単位の計画が必要だと認識はしている。ただ、まちづくり市民会議では代表制がない場で意見交換をしており、円卓会議は条例に位置付けられており、この「各中学校区のまちづくりの方向性」は誰の思いをどのようにまとめたのか疑問に思う。 例えば、他市の地域別計画では、20の小中学校区単位のまちづくり協議会が市民参加で議論し自らの責任でまとめているので、代表制は担保されている。今回、代表制が曖昧な中でどう公認していくのか。 行政が取り組むことについて、基本計画よりも具体的な書き方をしており、ここで特出しをする意味は行政の中でどのように考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 位置付けとしては、総合計画の冊子の中には入るが、総合計画とは別で取りまとめた物として、地域別計画ではなく、「各中学校区のまちづくりの方向性」とした。 総合計画は、議決要件になっているが、各中学校区のまちづくりの方向性は

委員	<p>議決要件ではないため、庁内での決裁で進めていく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの方向性とあるが、具体施策が見える形の手書きぶりとなっており、行政が今後10年間、それぞれの地域で重点的に頑張りたい項目のように見える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり市民会議の提言書をベースに、各地域で行っていききたい取り組みとして取りまとめている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区のまちづくりの方向性と基本構想を別冊にするとしても、2つ事業があるように見えるので、第五次総合計画の中の市民・事業者の取組内容のところに反映されている関係性を示すか、別冊でこのまちづくりの方向性を出す等の工夫をしていただけないか。 ・市民としては、基本構想で示されている内容より、こちらのほうが具体的なので見やすく将来どうなるか想像できる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策体系で実施することなので、計画ではなく資料として添付するのがわかりやすいのではないか。 ・今後、先ほど説明した地域ビジョンにつなげていくとして、冒頭に計画書があり、巻末に参考編、参考資料編というような形でとりまとめ方を検討してはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を強調して書くのではなく、文章で説明し総合計画のどの施策と関連しているか示すとわかりやすいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・左側のページで中学校区の活かしていきたいところと改善していきたいところを書いてあり、どのように展開するかについて、ページをまたいで書いてある。その関係がもう少し分かりやすく示せれば理解しやすいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・組換えをお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策19「市民とともにつくる参画と協働のまちづくり」は、すべての中学校区に入っている。これは、削除することにより、すっきりするのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市は人口規模として大きいまちではないので、地域別計画まで必要なのか。進捗管理等を行政が行っていくのは、職員も少なくなっていく中で大変だと思う。計画でなく方向性、参考資料として見させていただくという形でまとめるのであれば、非常に分かりやすい。 ・今回の資料に各中学校区のまちづくりの方向性（地域別計画）と書いてあるので、これまでの議論にあったように計画でないのであれば、地域別計画の文言を削除してはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画は、大阪狭山市の計画であり、地域別計画は、中学校区ごとの計画であることから、特に問題ないのではないか。 ・計画には、大きな計画と小さい計画がある。その辺りをどう理解されるかで判断してもらえばいいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは誰の思いかとの話があったが、円卓会議も含めて多くの委員が入り、地区の人は誰でも議論に参加できるという状態で検討されているので、この方向性は地域に返すものではないか。これまでの経緯を説明し、この方向性

<p>委員</p>	<p>を基に、具体的な市民参画や協働の取組みを進めてくださいと説明すれば、位置付けは明確になるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のページで、位置付けの説明と今後地域の方々とともに具体化していくとの文章が入れば。納得度も上がってくるのではないかと。 地域の概況にあるデータについては、地域の課題や調書に関連するような書き方で示すか、そうでなければ削除してはどうか。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他に意見があれば、1週間以内に事務局へ。次回からは審議会としての答申案の整理を行っていきます。
<p>事務局</p>	<p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日は限られた時間の中多くの意見を頂き感謝申し上げます。 第5回審議会は11月24日火曜日の午前10時からとさせていただきます。 第6回審議会は、12月19日土曜日の午後1時からとさせていただきます。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> これにて閉会する。 <p style="text-align: right;">(以上)</p>